

P.51~52 確認問題 A・B

P.51 確認問題 A

- (1) ウ (2) イ (3) ア (4) イ

P.52 確認問題 B

- (1) ア (2) ア (3) イ (4) イ

【解説】

確認問題 A

- (2) rain, (3) water は数えられない名詞なので、「多くの」「少しの」は much, a little を使う。
 (4) 〈not ... any＋名詞〉＝〈... no＋名詞〉「～がまったく…ない」

確認問題 B

- (1) often 「しばしば」、(2) usually 「ふつう」は頻度^{ひん ど}を表す副詞なので、一般動詞の前、be 動詞のあとに置く。
 (3) 「トムは上手に野球をします。」 good は形容詞。

P.53 STEP 1

- 1** (1) ウ (2) エ (3) イ
2 (1) ア (2) イ (3) イ (4) ア
3 (1) ウ (2) ウ (3) イ (4) イ
4 (1) いつも家にいるとは限りません
 (2) がサッカーを好きだとは限りません
5 (1) found something white in
 (2) sometimes plays tennis in

【解説】

- 1** (2) 形容詞が～thing を修飾する場合は、〈～thing＋形容詞〉の語順。「何か熱い飲み物はいかがですか。」という文。
 (3) be useful to ～「～にとって役に立つ」
2 (1) coins は coin の複数形。
 (2) 「ブラウン氏はパーティーで一言も言いませんでした。」
 (3) time 「時間」には量を表す形容詞を使う。
 (4) = There was not any water in the glass.
3 (1) work hard 「熱心に働く」
 (2) early in the morning 「朝早く」
 (3)・(4) 頻度を表す副詞。
4 (1) not always ～「いつも～とは限らない」
 (2) 〈not all＋名詞〉が主語 → 「すべての～が…とは限らない」
5 (1) 形容詞が～thing を修飾する場合は、〈～thing＋形容詞〉の語順に。
 (2) 頻度を表す副詞 sometimes 「ときどき」は一般動詞の前に置く。

P.54 STEP 2

- 1** (1) ア (2) ウ (3) エ (4) オ
2 (1) (y)ellow (2) (d)ifficult (3) (f)ar (4) (e)ither
3 (1) well (2) no (3) (f)amous (4) (a)lways
4 (1) is always kind to (2) is making something interesting in

【解説】

- 1** (1) 〈all the＋名詞の複数形〉で「すべての～」。
 (2) time 「時間」は数えられない名詞。
 (3) 〈a few＋数えられる名詞の複数形〉
 (4) 否定文で「～もまた」と言うときは either。
2 (1) 「あなたの新しい車について教えてください。何色ですか。」「黄色です。そして小さい車です。」
 (2) 「私はその質問は簡単だと思います。あなたもそう思いますか。」「いいえ、私はそうは思いません。難しいです。」
 (3) 「どうやってスタジアムまで行きましたか。」「自転車で。私の家から遠くはありません。」
 (4) 「私は何のペットも飼っていません。」「私もです。」
3 (1) 「彼はとても上手なテニスの選手です。」→「彼はとても上手にテニスをすることができます。」
 (2) 「私たちは今日は宿題がまったくありません。」
 (3) 「多くの若者がその歌手を知っています。」→「その歌手は若者の間で有名です。」
 (4) 「私たちは放課後たいてい図書館に行きますが、行かないこともあります。」→「私たちはいつも放課後図書館に行くとは限りません。」
4 (1) always 「いつも」などの頻度を表す副詞は、be 動詞の文ではふつう be 動詞の直後に置く。
 (2) 形容詞が ～thing を修飾するときには、〈～thing＋形容詞〉の語順。

P.55 読解問題

- 問1 at[on] Lake Biwa[the lake]
 問2 リサ先生の友達は夏に滋賀に来るべきだということ。
 問3 ③ エ ④ ウ
 問4 **A** イ **B** ア **C** エ
 問5 〔例〕 Shiga is a good place to visit both in the summer and in the winter /
 both seasons are good to visit Shiga

【解説】

- 問1 there は前に出た場所を受けて「そこで[に、へ]」という意味を表す副詞。
 問2 直前の大介の I think they should come in the summer. に対して、I don't think so. と言っているのは、so の中身は they should come in the summer. they を具体的に答える。
 問3 ③ snow は数えられない名詞なので、a little か much が入る。a little は「少し～ある」で、否定の意味にするときには a をとって little 「ほとんど～ない」を使うので不適切。not ～ much で「あまり～ではない」という意味になる。
 ④ 由香はこのあと、冬の滋賀のよさについて話しているので、同じ考えの真理子のことを正しいと思っている。
 問4 **A** この too は形容詞や副詞を修飾して「～すぎる」という意味。
C この too は文末で「～も」という意味。前の由香の「1月のはじめに来れば伝統的な文化を楽しめる」という発言に対して、「夏にも伝統的な文化は楽しめる」と言っている。
 問5 会話全体の流れを受けて英文にする問題。リサ先生は最初、滋賀を訪れるには夏と冬のどちらがよりよいかをたずねたが、大介、真理子、明、由香のそれぞれの意見から夏、冬両方について、滋賀のよい点があることがわかった。

《全訳》

リサ： みんなに聞きたいことがあるの。私の友達が夏か冬かに滋賀に来るんだけど、滋賀を楽しむにはどっちの季節がいいと思う？

大介： ぼくは夏がいいと思うな。滋賀には日本で最大の湖の琵琶湖があるからね。夏にはそこでウォータースポーツを楽しめるよ。だから、夏に来るべきだと思うな。

真理子： 私はそうは思わないわ。夏は暑すぎるもの。雪におおわれた山はとてもきれいだから冬に来るべきだと思う。スキーを楽しむこともできるしね。

明： でも真理子、滋賀にはあまり雪が降らないときがあるよ。何年前か、友達とスキーに行ったけど、十分な雪がなかったんだ。

由香： なるほどね。でも、それでも私は真理子に賛成だな。1月のはじめに来たら、伝統的な文化を楽しめるんじゃないかしら。着物姿の人を見ることができるし、お正月の特別な食べ物だって食べられるじゃない。

明： そうだね、由香、でも夏にも伝統的な文化は楽しめると思うな。例えば、夏にはお祭りがいくつもあるでしょう。みんな浴衣で踊って楽しむよ。それに琵琶湖に上がるきれいな花火が見られるしね。

リサ： みんな、わかったわ。どうもありがとう。滋賀は夏でも冬でも訪れるのにいいところだって[どちらの季節も滋賀を訪れるのにいいって]ことがわかったわ。